

岩手県 グループホームえくぼ

自 己 評 価 票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	地域の方、老人会等への参加、子ども会との交流を図りたい
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	敬老会以外でも、家族同伴で日帰り旅行等を実施し、日常の中で、理解していただく機会を設ける。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○	今後取り組んでいくことが必要
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月のスタッフ会議で確認し合っている。	○	評価の意義を理解し、その結果を共有し、改善に向けていくこと
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・利用者様、ご家族様のご意見を聞いて、活用している。 ・協議の内容をスタッフ会議で報告し、全スタッフが共有し、取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービス事業所管理者会議に参加、情報を得、指導いただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職場研修として取り組み、スタッフと、利用者様も一緒に学んだ。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会は実施していないが、スタッフ会議でその意義について、話し合い、虐待防止への意識付けを図っている。	○	学習会を設ける

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明、疑問点については説明申し上げ、同意をいただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、利用者様の声を聞く機会を持ち、運営に活かしている。その他、毎月利用者様のミーティングなどでも、意見を頂き、運営に活かせるようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の1回の家庭通信と2ヶ月に1回のホーム便りを発行している。 ・通院などの結果についてはその都度、ご家族に報告するようにしている。 ・金銭のお預かりについては、ご家族の訪問時、出納簿で確認をいただいている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時や、申し込み時に重要事項説明時に説明している。利用者様には、毎月のミーティングで、説明し、また随時、話し合えるような雰囲気に努力している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議で意見を出しやすい雰囲気を作っている。	○ 開所間も無く各自、業務に取り組んでいる。問題意識を持ちながら改善に向けて意見を出せるようにする。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様の状況により、夕刻の時間にスタッフの配置が出来るようにソフトの移動をした。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	止むを得ない退職者以外、移動はしない。 ・退職時の入れ替わり時は時間的な余裕を持って新しいスタッフに引き継げるようにする。	○ 離職を防ぐ体制作り

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・他施設見学及び各種講習会への参加 ・講師を招いての学習会 ・資格取得への助成	○ ターミナルケアに向けての技術を高める
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入 定例会に参加し、情報を得て、サービスの向上に活かす。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務表作成時に夫々のスタッフの意向を聞き取り、可能な限り連休となれるように、また、趣味等のできるような勤務表に勤めている。	○ 夫々のスタッフの意思疎通を図るための報告、連絡、相談を密にする
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月1回のスタッフ会議を通じ、介護の意義も含め、夫々のモチベーションを高めるよう話し合っている。	○ 段階的な報酬体系を考える
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の申請をいただいたら、面談し望む生活のあり方をお聞きする。 ・入居前一度ホームの見学において頂き施設の概要を説明するようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談時訪問面談等で家族様と面談、望まれる生活等をお聞きする。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のホームの情報もお伝えし、利用者さんが選択できるよう助言している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族様だけの決定ではなくご本人が納得されてから入居されるようお願いしている。 今まで使用されていた日用品等などの持込をお勧めしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様の知恵や工夫を伺い生活の中に取り入れている。 例 正月行事		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族様との連絡を密にし、いつでも利用者様からも電話連絡を取れるようにしている。 家庭通信でも本人の様子を伝え、ご家族様の思いも必要に応じてご本人にお伝えするようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	生活の中で、利用者様の思い、ご家族様の思いを受け止め、必要に応じて仲介も行なっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人への訪問等、希望により行なっている。 希望があれば、出身地へのドライブ等を実施し、昔なじみの方との交流を図れるようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様との対人関係で緊張せず、関わりが出来るよう着席の場所や、穏やかに過ごせる関係を保つため、スタッフが仲介する。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も入居先に訪問し、状態の把握に努め、励ましている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	長年の生活習慣やご家族とのかかわり、地域との関わりを伺い、本人の思いを把握している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申請のあった時より、ご家族や利用されていたサービス事業所より情報をいただいている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録、バイタル記録、与薬内容などの状況を踏まえ、一日の生活を見守り、把握している。		
記録				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議で利用者様の状況を共有し、介護計画につなげている。 ・ご家族の面会時などに、気づきなどを教えていただき、状況の変化については報告し介護計画に反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居1ヶ月の様子観察期間を経過し、見直し後必要に応じて計画を変更。その後3ヶ月に一度見直しをしている。変化等には、連絡ノートを活用しながら、プランの変更を周知徹底し、対応している。。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、引継ぎ等で変化の状況をつかみ、必要に応じて対応の変更を提起、連絡簿や、連絡ノートで周知徹底している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族との外食、外出外泊等、要望に応じて対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる絵画、民踊、音楽、レクリエーション等の支援を受け、日々の生活に変化をもたらしている。 ・消防署の指導で、避難訓練を行なった。	○	万が一の所在不明等の対応について、警察の方の指導もお願いしていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の事業所を訪問したり、新しい施設が出来たときは、その情報を利用者様にお伝えする他、希望により、訪問し、見学等し、他の施設の利用も選択できるように助言している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加頂き、助言指導を頂き、支援につなげている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、ご本人の了解を得て定期的な受診を支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医に相談したり、主治医に定期的に受診し、治療を受けられるようにしている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置しており、定期通院や毎日の健康状態の把握に努めている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合、一定の期間、居室をあけて退院をお待ちするが、退院時の状況や生活状況の情報を把握し、関係機関や家族と調整を図っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針は出来ているがターミナルケアまでの希望については把握していない。	○	今後主治医や協力医と連携取りながら、進めていく必要があると考える。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームで対応可能なこと、不可能なことの見極めの必要性を協議しているが、準備は出来ていない。	○	環境等の整備、設備の整備等が必要と思われる。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居される際、担当者会議でご本人やご家族、利用されていた事業所の担当者からの情報を頂き、継続した生活が出来るよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	月1回のスタッフ会議等でも情報交換時の際プライバシーへの遵守についての確認を行なっている。 広報(施設便り)発行の際も、記録写真などを掲載させていただくときはご本人と、ご家族の了解を頂き、掲載している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	生活習慣や出身地等の風習等も把握し、馴染みの言葉や、声かけで、わかりやすく説明するようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の日課の設定はしているが、その日の流れに沿って外出希望があれば、可能な限り対応させていただいている。 特に、日課に強制することなく、ゆったり、生活していただけるようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望される、市内の理髪店に送迎している。 体調的に外出を好まない方には、希望される日に、馴染みの理髪店に訪問していただき、理髪を行なっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段、可能な限り、調理や、盛り付け等をしていただいている。 月1度程度、調理実習としての取り組みもある。 普段の食材調達の際、利用者様の好みをお聞きして購入するようにしている。	○ 利用者様の力をもっと発揮していただける、利用者様主役の調理等を取り入れる。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人毎の提供はしていないが、希望を取り入れ、提供できるようにしている。(飲酒はしていない)	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	用便時のサインを見逃さないようにして、何気なく、声を掛け、トイレへ誘導させていただいている。 便秘傾向の方には、食後それとなく誘導し、定期的な便通が出来るように努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	身体的なところも配慮し、隔日に入浴している。 利用者様の意向で秋ごろよりは、「午後に入浴したい」とのことで実施している。 夏場には、午前の入浴や、シャワー浴も実施した。	○	夜間の入浴は出来ないか
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者様の身体状況や、習慣等を把握し、午睡などをお勧めし気持ちよく休まれるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野や技術を他の方にお伝えいただいたりお互いに学びあう機会を作れるようにしている。 些細なことでも、担っていただいたことに感謝の言葉を掛けるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解の下、小額でも自己管理として、所持していただき、外出時、持参されるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、ドライブ等可能な限り外出できるようにしている。 郵便局、買い物等スタッフが代行するのではなく、なるべくご本人が外出できるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全員での外食の外出はあるが、頻回ではない 個別での外出で、軽食を摂って来るときもある。	○	外食等の回数が少ないので、お花見とか行事での外出を兼ねた楽しみを企画も必要と考える。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に、ご家族様等への電話を掛けられるようにしている。プライバシーが保てるように、子機で自室での電話も取れるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	知人友人馴染みの方の訪問はいつでも受けられる。ご本人が望まれば自室での面会も出来る。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議で身体拘束に類する行為の確認をし、各自認識できるように学習している。	○	今後更に高齢化、重度化に伴う対応の技術向上を図る取り組みは必要と考える。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	スタッフがいつも傍におり、外出時は付き添えるようにしており、夜間の施錠以外は自由に出入れるようにしている。 居室にはご自分が施錠しない限り、介護者側の都合で施錠することは無い。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室入り口には、カーテンが設置されており、夜間の安否確認では利用者様の了解を頂き、定時の巡視をしている。利用者様の居室に訪問するときは、ノックして入室するようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用可能な物品は利用者様に応じて、対応している。 縫い針等についてはホームのものを提供し、使用後は、所定の場所にしまう。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	行方不明時のマニュアルは作成、窒息等の危険防止のため、飲食物の持ち込み時はご家族様の了解を得て、ホームでのお預かりとし、おやつ時などに食べていただくようにしている。	○	夫々のマニュアルの作成と、情報の共有 知識の習得が必要である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルはあるが、定期的な訓練はしていない。	○	マニュアルの見直しや確認が必要
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでは避難訓練をしているが、地域の方と一緒に訓練はしていない。	○	地域の方々や、消防分団の方の協力を頂き、訓練をする必要がある。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	抑制することなく今までの生活を継続できるよう話し合いをしている。 対応策は特に無い。	○	リスクに対してのもっと具体的な話し合いが必要と考える。
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日看護師によるバイタル測定をし、状態把握に努めている。 看護師不在の際は、スタッフが対応、異常に対しての対応を看護師より指示を受ける。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の処方時目的や状況に付いての注意事項などを看護師より伝達を受け、情報を共有して支援している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎食の食事に、食物繊維や、生野菜の摂取に配慮している。 ヨーグルト等の乳製品を取り入れている。 軽い軽運動等を取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後スタッフが口腔ケアの実施と声かけ確認をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取 午前午後の水分補給おやつを介護記録に記録 その他、自主的に水分を取れない方についてはお部屋にペットボトルで清涼飲料水やお茶をおき、自由に飲んでいただけるようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者様、スタッフともインフルエンザの予防接種を実施している。 食器の煮沸消毒 全館清掃消毒 手指の消毒 うがい		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材の調達 調理器具の消毒 布巾の消毒		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関を明るく、鉢花、絵画をレイアウトしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けたり季節に合った音楽を流すなどしている。 冬期にはホールにコタツを設置し家庭的な雰囲気を出せるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにコタツ、ソファ等あるが、一人になれる場所の確保は難しい。	○	衝立や、観葉植物などで空間を作ることも必要である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体的な変化に対応しながら、本人の希望を取り入れ、動きやすいような配置をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室に排気できる設備がある。 温度計、湿度計を設置し、温度調節に努めている。 朝の清掃時や定期的な巡視の際、こまめに換気を行なっている。 適度な湿度を保つため、ホールに加湿器を設置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターの設置があり、段差の無い建物になっている。 一方健脚な方は、階段を利用して、移動されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室へスムーズに移動されるために、見やすい目印や、お名前を目線にあわせて表示している。 トイレ等についても見やすい場所に表示し、自ら利用でき、混乱しないように配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには布団干しが出来る。 隣接する公園では散策や花卉栽培、レクリエーションを実施している。	○	地域の子供会などと一緒に夏祭りや花火大会など実施できる企画をしたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)